

水稻「コシヒカリ」の高温対策

高温により懸念される影響

- ◎登熟期(7月下旬～8月)に日平均気温が27℃以上の高温が続くと白未熟粒、胴割粒等が発生しやすくなります。
- ◎出穂後10日間は高温で、刈り遅れると胴割粒が増加します。
- ◎カメムシ類の発生が多くなり斑点米が発生します。



高温対策

玄米品質を向上させるためには基本技術が必要です。
もう一度、管理を見直し、下記の対策を実施しましょう。

①高温耐性品種の導入

「ふくまるSL」や「にじのきらめき」等、高温条件下でも品質が低下しにくい品種を導入しましょう。

②作土深の確保

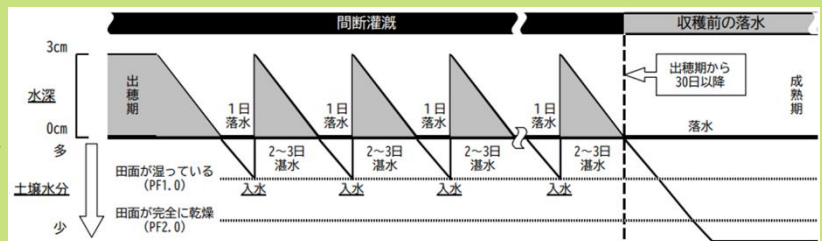
作土が浅くなるほど白未熟粒、胴割粒が増加します。作土深 15 cm を目標に、収穫後は十分な深さに耕しましょう。根張りを良くすることで、高温による品質低下の影響を受けにくくなります。

③適期田植えの実施

5月中下旬に田植えすることで、高温である7月下旬～8月上旬の出穂期を避けることができます。また、分げつが抑制され生育量が適正化することで、千粒重も増加し、品質向上が期待できます。

④中干しの実施

総籾数が多いと乳白粒が増加します。必要な茎数を確保した後、10～12日ほど田面に軽くひびが入る程度に中干しを実施し、茎数を抑制しましょう。



(茨城県農業研究所「水稻玄米の乳白米発生軽減及び過乾燥防止による商品性向上技術の開発」より)

⑥穂肥の適正実施 (基肥+穂肥体系)

高温登熟下での窒素不足は背白粒、胴割粒の発生を助長させることがあります。幼穂形成期の生育量が適正であれば、出穂前12～15日頃に速効性窒素で1～2kg/10a 施用しましょう。

⑦斑点米カメムシ類対策

クモヘリカメムシは側部、イネカメムシは基部、アカスジカスミカメは頂部を加害します。斑点米被害を軽減させるための防除適期は出穂10～15日後頃(乳熟期)です。発生量が多い地域では穂揃期と乳熟期の2回防除を行いましょ。



(茨城県農業研究所 Web 版病害虫図鑑より)

⑧適期収穫と適正乾燥の実施

緑色を帯びた籾の割合が10%程度を目安に収穫しましょう。胴割粒の発生が懸念される場合は、高温・急激な乾燥を避け、穀温40℃以下で乾燥し、二段乾燥※を行いましょ。

※二段乾燥: 籾水分18%程度で乾燥機を止め、一時貯留して乾燥する。

雑草イネ対策

雑草イネの特徴

- ◎ 籾がこぼれやすい。
 - ◎ 出穂期や草丈が栽培品種と異なる。
 - ◎ 籾の先端や芒が着色している。
 - ◎ 籾の色が茶色～黒っぽい。
- ※このタイプではない雑草イネもあります。

雑草イネが入ってしまうと…

赤色や褐色の玄米が混ざり等級が落ちます。
栽培品種と競合し、収量が下がります。



脱粒した雑草イネ



出穂した雑草イネ



芒、先端の様子



雑草イネ（赤米）

(農研機構雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアルより)

雑草イネ対策

雑草イネを軽減させるには、1 つだけの技術ではなかなか減らすことができません。複数の技術を組み合わせた対策をしましょう。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
非選択性除草剤 (ひこばえ防除)						非選択性除草剤 (ひこばえ防除)	②代かき 遅植え			
①収穫後不耕起							③有効除草剤 の体系処理		④手取り除草	

①未耕起

収穫後は耕起せず、冬の寒さにあて種子を死滅させるとともに鳥に捕食させます。

②5月下旬以降の代かき・田植え

5月下旬以降を目安に代かき・田植えを行います。代かきは浅水で2回行い、出芽した雑草イネを埋没させます。代かきから間を空けずに田植えしましょう。

③有効な除草剤による3回体系処理

雑草イネは発生期間が長いので、初期剤、一発処理剤、中期剤を使った体系処理を行いましょう。

④手取り除草

雑草イネを発見したら、籾がこぼれる前(出穂10日頃まで)に手取り除草を3回程度に分けて行い、種子を圃場に落とさないようにします。

★雑草イネの種子の寿命は3年程度です。上記の対策を3年ほど継続しましょう。

★収穫後の雑草イネは色彩選別機で取り除けますが、水田の雑草イネを放置したままにすると、機械や鳥を介して拡散します。蔓延すると対処が難しくなり、地域全体の水稻にも大きな被害をもたらす可能性もあります。見つけたら早めに対処しましょう。

★大豆等へ転換し、イネに有効な除草剤で防除することも検討しましょう。

【問合せ先】茨城県農林事務所 経営・普及部門 TEL 029-227-1521、FAX 029-225-0955